

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276700214		
法人名	有限会社アートプロジェクト		
事業所名	グループホーム 磐田かつらぎの家 (1号館)		
所在地	磐田市岩井2070-9		
自己評価作成日	平成27年8月8日	評価結果市町村受理日	平成27年9月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2014_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=2276700214-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2014_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=2276700214-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年9月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者ひとり一人との関わりを多く持ち、ひとり一人の気持ちに寄り添い悩みや相談等しっかり聞いて各人に合ったケアをし、利用者さんが安心して楽しく生活できるように支援しています。食事は、栄養をバランスを考慮して季節の食材を使用している。個々の食事形態を把握しその方に合った食事作りをしている。  
 ・自宅以外で第二の家(居室)を持ったという認識で、穏やかに落ち着いた空間を提供して、一人ひとりがリラックスできるように努めている。ご本人の残存能力を見極めて極力オーバーケアにならないように努め、ADL維持を図っている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護相談員からは「若い職員も欲しいですね…」との進言がありますが、開所以来の定着率の高さはチームワークを物語り、また人生経験の豊かさに利用者も「お母さん、お父さん」と職員を呼ぶ場面もあるほど信頼を募らせています。ADLの維持を注視し、オーバーケアにならないようにしていることが特徴で、「本人のデキルを生かしたい」を方針とし「まだデキル」と思える気持ちを大切にしています。その日の始まりに口紅を塗る人、家族と馴染みの店に通う人、在宅で日課としていた公園散歩を続ける人、習字や折り紙の趣味を毎日の張合いとする人…というように一人ひとりの縁をいつくしめるよう、生活歴の把握に努めている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆったりした介護と環境、楽しく過ごす第2の家を理念として管理者と職員は共有して実践に向けて努力している。	管理者と現場リーダーが「職員の悩みに関わることが自らの成長」と捉え、育成につなげています。またストレスを減らす工夫として困り事や不安を吐きだせる場所を設けてもいて、職員自身がゆったりとした環境の一部となれるように取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、地域の行事には案内状を頂いている。文化展には作品を出展したり、お祭りにはホームの駐車場で踊り、休憩の場として提供している。	移住者が増え普段の交流はありませんが、地域の防災訓練に年2回出向き、また東大久保文化祭出展作品は近所の人運んでくださるなど、輪が拡がりつつあります。中学校の福祉体験、山車の子ども手踊り、音楽ボランティア訪問もあり、今後はアニマルセラピーも予定しています。	「地域とつながることが難しいことは課題と捉えている」ことから、社会福祉協議会や民生委員・児童委員協議会、保育園、医院、公民館(館長)への挨拶廻りを一度検討くださることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の話等をして理解を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域の皆さんと一緒に、介護で苦勞している話の情報を流したり、地域の皆さんの話を聴き施設でのサービス向上に活かしている。	参画の民生委員は以前利用者家族として関わってくださったという経緯があり、知見ある助言をくださいます。家族参加を促すこともねらいとしてラフターヨガや秋祭りの案内を出していますが出席は得られておらず、隔月開催はできているものの運営には課題が残ります。	勤務者の家族が多いため運営に関わってもらえないようですが、例えば居室に交換ノートを置いたり、便りの中に返信シートを入れるなど今後も何らかの模索を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業連絡会や推進会議などでは解らない事を相談して、アドバイスしていただいている。入居状況の情報を提供している。	介護相談員の受入れをおこなっており、「若い職員が加わるとよいのでは…」といった具体的な進言を得ています。行政の窓口とは月1回以上連絡を取り合い、良好な関係を築いています。市から種球根を提供してもらっていて、咲いた花は撮影のうえ御礼として届けています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し、身体拘束をしないケアをしている。玄関のカギは利用者さんの安全の為施錠している。	身体拘束ゼロ宣言をおこなっていますがスピーチロックは課題面もあるとして多様な場面で考える時間をもっています。親しさが余った言葉が出たときは言い換えを指導し、強めの口調にも都度注意しています。会議で事例紹介したり、管理者が適切な声かけを書面にまとめています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法に基づいて対応している。研修課程の中で勉強している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議の時、行政の人に聞いたり、包括支援センターに相談している。必要に応じて関係者と話し合っ活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者家族には入居相談時から十分な説明を行い、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には積極的に意見を聴くように努力している。家族から出された、意見や相談について、よく話し合い、運営に反映させている。	案内を発送するとレスポンスがあり、事業所と双方向のやりとりがありますが、常には担当者が窓口として話を受けています。家族からは「ありがとうございます」の言葉が多く、不満を聴けるまでには至っていません。	家族アンケートではレクリエーションをはじめとする要望が幾つか挙がっていますので、愚痴レベルが職員に直接届くような関係となれることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議の場で職員から出された要望や意見を管理職と職員で良く話し合い、反映させている。	地域責任者の定期訪問があり、職員は状況やニーズに応じて相談者を選ぶこともできます。また館山寺にニュー泉館を配し、夏季研修や管理者研修をおこなうことで職場環境を高めています。また単に人員調整ではなく、個々の特性を踏まえた人事異動があるとの支援もあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則を守り、職場の整理整頓を実践し働き易い職場環境作りに努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は管理職指導で、介護支援専門員や介護福祉士は自己啓発で資格修得している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理職間の情報交換はあるが一般職員の交流は少ない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接、家族の情報から、本人の要望、困っている事、不安なことを聞き出し安心を確保するための関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族にはどのようなサービスを導入するのか、本人の情報を細かく聴き取り、家族、本人とも不安のないように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対面では本人が必要とする支援を見極める為に、アセスメントを充分に実施している。本人も交えながら話し合い、相談し、工夫している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は人生の大先輩を敬う気持ちを大切に、思いやりを持ち、日々生活を共にしながら信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族は何を心配しているのか、どう思っているのかを聞き出し、職員の思いを伝え、共に本人を支えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特に馴染みの人との関係が途切れることの無いよう、本人の希望や訴えがある時は、連絡を取るようして途切れの無い支援に努めている。	その日の始めに口紅を塗る人、家族と馴染みの店に通う人、在宅で日課としていた公園散歩を引き続きおこなう人、独り暮らしをしていた自宅を見に行く人、習字や折り紙の趣味を毎日の張合いとする人…というように一人ひとりの縁を大切にできるよう、生活歴の把握に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の間に立って話の受け渡し役をしたり、ボール遊びやゲーム遊びの声掛け役をして利用者同士が交流できる雰囲気作りに、努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時はアドバイスして、状況に応じて、地域包括へ情報を提供してフォロー依頼をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	詳細なるアセスメントを実施し利用者本位にサービスを提供している。	普通の暮らしぶりやなにげない発語からイメージを膨らめて投げかけをおこなうこともあり、接する時間を長くもつことが意向把握に役立っています。海軍経験のある人は命令に従う習慣に配慮し、子どもを深く想う人には「会えなくて寂しい」ことに共感しつつ寄り添っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面接、フェイスシート、家族からの情報で生活歴、馴染みの暮らし方、生活環境等把握している。モニタリングを定期的に行いサービス利用の経過を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常時、状態を観察し、定期的に行うモニタリングで現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族からの要望を基に担当職員が会議を開き、課題について話し合い、介護計画を作成している。	契約時にはアセスメントとともにリスクチェック表を作成し、日常生活で起こりうる危険値を家族に理解してもらっています。毎月の定期モニタリングのほかにフロアミーティング内で日々の状態記録を参照しながら見直しをおこなっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に1日の様子、ケア等介護経過を記録している。気付いたこと等は職員間で申し送りをして介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常時、既存のサービス以外でもその時々々のニーズにあった対応を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内の移動が車椅子の利用者の場合、外出や通院の移動は家族との相談の上、介護タクシーを利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医の継続や事業所の協力医による受診を支援している。	かかりつけ医の継続者は3名で、ほかは協力医に変更しています。毎週看護師が訪問しての健康管理が施され、協力医も車で5～6分の開業医と、医療が身近にあり安心です。緊急時にはオンコールで医師の指示を仰ぎ救急病院へ、また家族には月次で受診報告をおこなっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に1回看護師が訪問して、健康管理、受診の相談、アドバイス等受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急時においても病院へ必要な情報が直ぐに伝えられるようにしてある。又病院側と情報交換して、退院日程等相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病気が重度化した場合については、日頃から家族との間で話し合いをしている。協力医の関係から医療機関への紹介が方針になっている。	契約時にリスク説明書に基づき案内をおこない、医療連携体制加算についての同意書を交わしています。看取りの経験は無く研修会の予定や対策も考えてはいませんが、法人制度のAA課程のセミナーで急変時の学習を積んでおり、また自主会主催のAED講習に出向くことにもなっています。	「最期まで此处で」という本人、家族の意志がなければ急ぐ必要はないものの、看取り実績のある法人内の事業所に於いて学ぶ機会をつくることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変事故等の対応は決められている。救急搬送する場合の手順等は訓練で対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、災害時の避難訓練をしている。今年度は地域との共同訓練を実施して、常に相互協力体制を構築している。	法人レスキュー隊の派遣も有事への安心となり、また防災訓練では6名もの近隣住民が階下避難を職員とともにこなってくださり、大きな励みとなりました。相互協力が構築しつつあることから自宅損壊の高齢者の受入れの検討に入っています。	備蓄が1日分程度とのことですが、現状のままではよいのかどうか一度検討されることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の声掛けや対応はその状況に合わせ、周囲に配慮して行っている。個人情報の扱いには充分気をつけている。	生活歴の把握からこれまでの暮らしが続くようにと働きかけています。若年性認知症の利用者には家族から「脳トレを」との要望がありますが、本人の拒否があるため無理にはおこなっていません。タイミングをみて家事といった他のアクティビティで類似の機能訓練ができるようにしています	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや暮らしの希望を把握して日常生活を支援している。本人の思いや希望が表し易い環境を作るように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの状況に合わせ周囲の利用者にも配慮して行っている。利用者のペースに合わせ日常生活が出来る様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	持参されている衣類の中から季節にあった本人の好みを考えて対応している。散髪は2ヶ月に1回、ご本人とご家族の了解を得て施設の方で理美容師に依頼している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けは職員がおこなっているが、下膳に関してはできる方はお手伝い頂いている。	男性入居者の多い1階では丼ぶりメニューを開拓していて、各階でその人に応じた工夫があります。外食が困難のため、毎月1度のイベント食や手土産寿司は人気です。おやつは市販のおまんじゅうや煎餅を好んで食しますが、職員はかき氷等新たなチャレンジもおこなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は食材業者に依頼しており、栄養バランスは十分に確保される様に支援している。食事量、水分量は介護記録に記し利用者の状態に応じた形態、量で支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後歯磨きの声掛けをし、入れ歯の洗浄消毒をしている。利用者が出来る範囲で口腔ケアをしてもらい出来ない事を支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握しており、体調に応じて対応し、支援している。	ギリギリまでパットやおむつを控え、トイレで座位を保ってもらえるようおこなう方針です。水分摂取記録を以て水分補給をおこなう便秘対策のほか、食後にはトイレに一度は座ってもらうという方法と多様な試みがあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排泄パターンを把握し、医師との連携を図りながら、便秘に対して利用者に適した処方をして便秘予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週に3回、利用者がゆっくり楽しめる様に時間を充分とってある。入浴を嫌がる利用者にはシャワーを活用している。	ノスタルジックなタイル張りの浴室は臭いもなく清潔な空間に仕上り、広い浴槽は仲の良い同士が湯に浸かることもあります。歩行が不安定な人には好きなお風呂への意欲に乗じて職員介助と手すり浴槽まで歩いてもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後の状態を観察しながら臥床の声かけをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示に基づいて服薬の支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物のたたみ、ゴミ袋の名前書き、カレンダーの入れ替え等、得意分野でそれぞれが力を発揮してもらうよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、外気浴は天気や利用者さんの状態に応じて支援している。外出に関しては本人の希望を把握し、家族に協力を求め、対応している。	公園までの散歩のほか、花見と紅葉狩りは恒例行事です。マイクロバスを借りることで、車いす利用が増えても多人数での外出が年1回は叶っています。散歩が無理なときは1~3階の全フロアを巡る利用者の姿がみられ、顔ぶれが変わることで本人も職員もリフレッシュしています。	フロア面積が広いことから足腰の訓練はおこなっていますが、上に高い建物のため戸外に頻回にでることがスムーズか気がかりです。外気浴の頻度を記録し、先ずは状況把握を期待します。



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人のお小遣いは小口現金管理しており、受診、薬等に使っている。買いたいものがある時は、家族に相談し、対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に沿って対応している。。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく、清潔で整理整頓された環境を提供して、利用者の心地よい場所作りに努めている。	「普段ない荷物があると速やかに片づけてしまう」ことが職員に身につけていて、動線が確保されたスッキリとした空間です。開所当時から変わらず元気に枝葉を伸ばした観葉鉢も仲間の一人として皆を和ませてくれています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間においては、利用者の希望に応じて、テレビを見る場所、ゲームをする場所、絵を描く場所等、スペースを確保する為に工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はそれぞれの利用者の思いや生活習慣、家族との懇談場所になるように支援している。	いつでも好きな書道ができるよう道具を傍らに置く人、自分で作った暖簾をかける人、毎日化粧を施す人、それぞれの趣を受けとめることができる居室を視認しました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の一人で出来ることを考慮し、家族と職員が相談しながら安全で安心して過ごせる工夫をしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276700214		
法人名	有限会社アートプロジェクト		
事業所名	グループホーム 磐田かつらぎの家 (2号館)		
所在地	磐田市岩井2070-9		
自己評価作成日	平成27年8月8日	評価結果市町村受理日	平成27年9月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先: [x.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2014\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=227](http://x.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=227)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年9月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者ひとり一人との関わりを多く持ち、ひとり一人の気持ちに寄り添い悩みや相談等しっかり聞いて各人に合ったケアをし、利用者さんが安心して楽しく生活できるように支援しています。食事は、栄養をバランスを考慮して季節の食材を使用している。個々の食事形態を把握しその方に合った食事作りをしている。  
 ・自宅以外で第二の家(居室)を持ったという認識で、穏やかに落ち着いた空間を提供して、一人ひとりがリラックスできるように努めている。ご本人の残存能力を見極めて極力オーバーケアにならないように努め、ADL維持を図っている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護相談員からは「若い職員も欲しいですね…」との進言がありますが、開所以来の定着率の高さはチームワークを物語り、また人生経験の豊かさに利用者も「お母さん、お父さん」と職員を呼ぶ場面もあるほど信頼を募らせています。ADLの維持を注視し、オーバーケアにならないようにしていることが特徴で、「本人のデキルを生かしたい」を方針とし「まだデキル」と思える気持ちを大切にしています。その日の始まりに口紅を塗る人、家族と馴染みの店に通う人、在宅で日課としていた公園散歩を続ける人、習字や折り紙の趣味を毎日の張合いとする人…というように一人ひとりの縁をいつくしめるよう、生活歴の把握に努めている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったりした介護と環境」「楽しく過ごす第2の家」を施設の運営理念とし、職員一同、常に共通意識を持ち、利用者の安全と安心に努めている。	管理者と現場リーダーが「職員の悩みに関わることが自らの成長」と捉え、育成につなげています。またストレスを減らす工夫として困り事や不安を吐きだせる場所を設けてもいて、職員自身がゆったりとした環境の一部となれるように取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会の祭典や文化祭の行事等に参加した。夏祭りでは2号館は6名が参加して、地域の人たちとの交流を図った。	移住者が増え普段の交流はありませんが、地域の防災訓練に年2回出向き、また東大久保文化祭出展作品は近所の人から運んでくださるなど、輪が拡がりつつあります。中学校の福祉体験、山車の子ども手踊り、音楽ボランティア訪問もあり、今後はアニマルセラピーも予定しています。	「地域とつながることが難しいことは課題と捉えている」ことから、社会福祉協議会や民生委員・児童委員協議会、保育園、医院、公民館(館長)への挨拶廻りを一度検討くださることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、中学生に福祉体験を通して学生時代から認知症の人の理解や関わり合いを経験してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、市職員・包括・自治会長・民生委員が出席され、施設の様子を報告し、助言や意見をサービス向上に活かしている。家族も出席され、活発な意見を頂いている。	参画の民生委員は以前利用者家族として関わってくださったという経緯があり、知見ある助言をくださいます。家族参加を促すこともねらいとしてラフターヨガや秋祭りの案内を出していますが出席は得られておらず、隔月開催はできているものの運営には課題が残ります。	勤務者の家族が多いため運営に関わってもらえないようですが、例えば居室に交換ノートを置いたり、便りの中に返信シートを入れるなど今後も何らかの模索を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回出席された市職員から分からないこと等、意見や助言を受けている。	介護相談員の受入れをおこなっており、「若い職員が加わるとよいのでは…」といった具体的な進言を得ています。行政の窓口とは月1回以上連絡を取り合い、良好な関係を築いています。市から種球根を提供してもらっていて、咲いた花は撮影のうえ御礼として届けています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	特に言葉での拘束が無いように職員会議で議題に挙げたり、日々の対応で職員同士が共通意識を持って取り組んでいる。	身体拘束ゼロ宣言をおこなっていますがスピーチロックは課題面もあるとして多様な場面で考える時間をもっています。親しさが余った言葉が出たときは言い換えを指導し、強めの口調にも都度注意しています。会議で事例紹介したり、管理者が適切な声かけを書面にまとめています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で実施しているAA課程の研修において、正しい理解を得て、身体拘束をしないケアを実践している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、CMIは外部研修に積極的に参加して、常に最新の介護技術・制度について勉強する機会を得ている。知り得た情報技術は全体会議等で職員への研修に活用して情報の共有化を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者家族には入居相談時に十分な説明を行い理解を得ている。その後の家族からの疑問等は素早く対応するように努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には積極的に意見を聴くよう努力している。家族から出された意見や相談について、よく話し合い、運営に反映させている。	案内を発送するとレスポンスがあり、事業所と双方向のやりとりがありますが、常には担当者が窓口として話を受けています。家族からは「ありがとうございます」の言葉が多く、不満を聴けるまでには至っていません。	家族アンケートではレクリエーションをはじめとする要望が幾つか挙がっていますので、愚痴レベルが職員に直接届くような関係となれることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案はリーダー会で話し合い職員の全体会議で検討し合い地域責任者の意見や助言を参考にして反映させている。	地域責任者の定期訪問があり、職員は状況やニーズに応じて相談者を選ぶこともできます。また館山寺にニュー泉館を配し、夏季研修や管理者研修をおこなうことで職場環境を高めています。また単に人員調整ではなく、個々の特性を踏まえた人事異動があるとの支援もあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場の整理整頓を実践し、働き易い環境作りに努力している。館長と職員面談を随時、行う予定。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は管理職指導で、介護支援専門員や介護福祉士は自己啓発で資格修得している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理職間の情報交換はあるが一般職員の交流は少ない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階では納得して入所される方が少ないため、家族からの要望が主になっていることが多い。、入居前の本人との面談の際、本人の言われたことを見極め信頼関係が作れるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階では本人の意向等が確認できないことが多いため家族からの要望等が主になることを踏まえ家族との関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向を多方面から情報収集して、最も良いサービス利用ができるようしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な立場に立たず、人生の大先輩として敬う気持ちを大切にしている。時には職員の分からないことを相談できるような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子等、特に身体の様子は家族との連絡を密にして相談したり指示を仰いだりして、本人にとって最も良い支援が出来るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特に馴染みの人との関係が途切れることの無いよう本人の希望や訴えがある時は、連絡を取るようして途切れのない支援に努めている。	その日の始まりに口紅を塗る人、家族と馴染みの店に通う人、在宅で日課としていた公園散歩を引き続きおこなう人、独り暮らしをしていた自宅を見に行く人、習字や折り紙の趣味を毎日の張合いとする人…というように一人ひとりの縁を大切にできるよう、生活歴の把握に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が共通の話ができるように席の配置を考慮したり話の仲介をしたりしている。風船バレーや歌の参加等声掛けをして利用者同士が交流できる雰囲気作りにも努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された家族からの相談には最後まで支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを充分に行いアセスメントシートに記入し、本人本位の生活ができるようにしている。言葉に表せない思いを汲み取る努力をしている。	普段の暮らしぶりやなにげない発語からイメージを膨らめて投げかけをおこなうこともあり、接する時間を長くもつことが意向把握に役立っています。海軍経験のある人は命令に従う習慣に配慮し、子どもを深く想う人には「会えなくて寂しい」ことに共感しつつ寄り添っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、本人・家族・紹介者等から情報を得てなるべく環境が変化しないように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体の観察に努め、言動にも注意を払い変化を見逃さないようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族からの要望を基に担当職員が会議を開き、課題について話し合い、介護計画を作成している。	契約時にはアセスメントとともにリスクチェック表を作成し、日常生活で起こりうる危険値を家族に理解してもらっています。毎月の定期モニタリングのほかにフロアミーティング内で日々の状態記録を参照しながら見直しをおこなっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化があった時は介護記録等に記入し、出勤時には必ず記録を読むようにしている。口頭での申し送りもして状況に合った対応をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の身体や言動の把握をし、家族との連絡を密にし、その時の状況に合ったサービスをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	恒例の自治会の文化祭の出品物を家族と協力しながら、特技を活かし楽しみながら作り上げている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医から、当ホームの協力医に変更することが多く、職員受診時、特変があれば、その都度家族に報告している。	かかりつけ医の継続者は3名で、ほかは協力医に変更しています。毎週看護師が訪問しての健康管理が施され、協力医も車で5～6分の開業医と、医療が身近にあり安心です。緊急時にはオンコールで医師の指示を仰ぎ救急病院へ、また家族には月次で受診報告をおこなっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師出勤時に、バイタルチェックや身体の観察をしている。その時に、変化等を伝え指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者の情報を詳しく説明している。入院中には看護師等に様子を聞いたりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の説明はしている。重度化しそうな時には予測をして事前に話し合いを持っている。	契約時にリスク説明書に基づき案内をおこない、医療連携体制加算についての同意書を交わしています。看取りの経験は無く研修会の予定や対策も考えてはみませんが、法人制度のAA課程のセミナーで急変時の学習を積んでおり、また自主会主催のAED講習に出向くことにもなっています。	「最期まで此処で」という本人、家族の意志がなければ急ぐ必要はないものの、看取り実績のある法人内の事業所に於いて学ぶ機会をつくることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練はしていないがマニュアルがある。新人職員には手順等は口頭でも伝えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、災害時の避難訓練をしている。今年度は地域との共同訓練を実施して、常に相互協力体制を構築している。	法人レスキュー隊の派遣も有事への安心となり、また防災訓練では6名もの近隣住民が階下避難を職員とともにこなさってくださり、大きな励みとなりました。相互協力が構築しつつあることから自宅損壊の高齢者の受入れの検討に入っています。	備蓄が1日分程度とのことですが、現状のままでよいのかどうか一度検討されることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の声掛けや対応はその状況に合わせて、周囲に配慮して行っている。排泄等の声掛けは、その人だけに聞こえるようにしている。	生活歴の把握からこれまでの暮らしが続くようにと働きかけています。若年性認知症の利用者には家族から「脳トレを」との要望がありますが、本人の拒否があるため無理にはおこなっていません。タイミングをみて家事といった他のアクティビティで類似の機能訓練ができるようにしています	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できない時は本人の日頃の言動に注意を払い、言葉に表せない気持ちを汲み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課は決まっているが、一人ひとりのペースに合わせて焦らせない対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	機能性を重視することなく、本人や家族の希望に添って支援している。散髪は2ヶ月に1回、利用者のご家族の了解を得て施設の方で理美容師に依頼している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼、夕は食材を献立し、準備している。朝は食材をアレンジして施設の畑で作った野菜を利用している。食事の準備は安全に配慮し、入居者に手伝ってもらっている。片付けでは利用者が食器の洗いや拭き上げの手伝いをしている。	男性入居者の多い1階では丼ぶりメニューを開拓していて、各階でその人に応じた工夫があります。外食が困難のため、毎月1度のイベント食や手土産寿司は人気です。おやつは市販のおまんじゅうや煎餅を好んで食しますが、職員はかき氷等新たなチャレンジもおこなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は食材業者に依頼して栄養バランスは十分に確保されている。食事量は利用者の希望で調整している。嚥下障害がある利用者には水分にトロミを付けたり、刻み食にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後歯磨きの声掛けをし、入れ歯の洗浄消毒をしている。義歯がない利用者にも歯ブラシで歯ぐきや舌を磨いてもらっている。		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し一人ひとりの排泄パターンを把握している。排泄のサインを見逃さずトイレ誘導をしている。	ギリギリまでパットやおむつを控え、トイレで座位を保ってもらえるようおこなう方針です。水分摂取記録を以て水分補給をおこなう便秘対策のほか、食後にはトイレに一度は座ってもらうという方法と多様な試みがあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の重度化が認知症の重度化につながることを理解し、水分摂取の促しや乳製品の摂取をしている。それでも便秘が解消しない時は医師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人が週に3回を目安に、ゆっくり楽しめるよう日曜日以外毎日入浴できるようにしている。入浴を嫌がる利用者にはタイミングを図りスムーズに入浴できるように声かけをしている。	ノスタルジックなタイル張りの浴室は臭いもなく清潔な空間に仕上り、広い浴槽は仲の良い同士が湯に浸かることもあります。歩行が不安定な人には好きなお風呂への意欲に乗じて職員介助と手すり浴まで歩いてもらえています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファで傾眠している時は居室で休むように声かけをしている。夜間は安眠できるように照明等配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は処方箋で薬の目的等は理解している。薬を飲み込むまで確認している。服薬後の症状の変化については医師と相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自ら、お手伝いをする利用者の意思を尊重し快く受け入れ、生活に張り合いや役割を持ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族の協力を得ることが多い。食事に出掛けたり、年の行事(正月・盆等)には自宅に帰り墓参り等に出掛けている。地域の人々の協力は得られてはいない。	公園までの散歩のほか、花見と紅葉狩りは恒例行事です。マイクロバスを借りることで、車いす利用が増えても多人数での外出が年1回は叶っています。散歩が無理なときは1~3階の全フロアを巡る利用者の姿がみられ、顔ぶれが変わることで本人も職員もリフレッシュしています。	フロア面積が広いことから足腰の訓練はおこなっていますが、上に高い建物のため戸外に頻回にでることがスムーズか気がかりです。外気浴の頻度を記録し、先ずは状況把握を期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人のお金は小口現金管理をして受診、薬等に使っている。本人の希望でコーヒー等の嗜好品も購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎週、欠かさず遠方より電話が掛かってくる利用者がいる。手紙や荷物が届くこともありお礼の電話は掛けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備をして転倒等を防ぐ努力をしている。観葉植物や季節の花を飾り季節感を味わってもらっている。	「普段ない荷物があると速やかに片づけてしまう」ことが職員に身につけていて、動線が確保されたスッキリとした空間です。開所当時から変わらず元気に枝葉を伸ばした観葉鉢も仲間の一人として皆を和ませてくれています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの周りに居室がある環境ですぐに居室に入り独りになれる。食卓は利用者同士で全員の顔が見えるように配置してある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居当初、自宅での馴染みの物を持ってきてもらっている。特技や趣味を生かした作品を居室に飾っている。	いつでも好きな書道ができるよう道具を傍らに置く人、自分で作った暖簾をかける人、毎日化粧を施す人、それぞれの趣を受けとめることができる居室を視認しました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分からない利用者に対しトイレの戸に張り紙をしている。各居室にネームプレートや写真を貼り分かりやすくしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276700214		
法人名	有限会社アートプロジェクト		
事業所名	グループホーム 磐田かつらぎの家 (3号館)		
所在地	磐田市岩井2070-9		
自己評価作成日	平成27年8月8日	評価結果市町村受理日	平成27年9月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先: [x.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2014\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=227](http://x.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=227)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年9月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・利用者ひとり一人との関わりを多く持ち、ひとり一人の気持ちに寄り添い悩みや相談等しっかり聞いて各人に合ったケアをし、利用者さんが安心して楽しく生活できるように支援しています。食事は、栄養をバランスを考慮して季節の食材を使用している。個々の食事形態を把握しその方に合った食事作りをしている。
- ・自宅以外で第二の家(居室)を持ったという認識で、穏やかに落ち着いた空間を提供して、一人ひとりがリラックスできるように努めている。ご本人の残存能力を見極めて極力オーバーケアにならないように努め、ADL維持を図っている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護相談員からは「若い職員も欲しいですね…」との進言がありますが、開所以来の定着率の高さはチームワークを物語り、また人生経験の豊かさに利用者も「お母さん、お父さん」と職員を呼ぶ場面もあるほど信頼を募らせています。ADLの維持を注視し、オーバーケアにならないようにしていることが特徴で、「本人のデキルを生かしたい」を方針とし「まだデキル」と思える気持ちを大切にしています。その日の始まりに口紅を塗る人、家族と馴染みの店に通う人、在宅で日課としていた公園散歩を続ける人、習字や折り紙の趣味を毎日の張合いとする人…というように一人ひとりの縁をいつくしめるよう、生活歴の把握に努めている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆったりした介護と環境、楽しく過ごす第2の家を理念として管理者と職員は共有して実践に向けて努力している。	管理者と現場リーダーが「職員の悩みに関わることが自らの成長」と捉え、育成につなげています。またストレスを減らす工夫として困り事や不安を吐きだせる場所を設けてもいて、職員自身がゆったりとした環境の一部となれるように取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、地域の行事には案内状を頂いている。文化展には作品を出展したり、お祭りに参加して交流を深めている。	移住者が増え普段の交流はありませんが、地域の防災訓練に年2回出向き、また東大久保文化祭出展作品は近所の人から運んでくださるなど、輪が拡がりつつあります。中学校の福祉体験、山車の子ども手踊り、音楽ボランティア訪問もあり、今後はアニマルセラピーも予定しています。	「地域とつながることが難しいことは課題と捉えている」ことから、社会福祉協議会や民生委員・児童委員協議会、保育園、医院、公民館(館長)への挨拶廻りを一度検討くださることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の話等して理解を求めている。中学生の福祉体験を受け入れている。相互協力の元、災害時の地域連携活動を依頼している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域の皆さんと一緒に、介護で苦労している話の情報を流したり、地域の皆さんの話を聴き施設でのサービス向上に活かしている。	参画の民生委員は以前利用者家族として関わってくださったという経緯があり、知見ある助言をくださいます。家族参加を促すこともねらいとしてラフターヨガや秋祭りの案内を出していますが出席は得られておらず、隔月開催はできているものの運営には課題が残ります。	勤務者の家族が多いため運営に関わってもらえないようですが、例えば居室に交換ノートを置いたり、便りの中に返信シートを入れるなど今後も何らかの模索を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業者連絡会や運営推進会議などの席で解らない事やアドバイス、相談にのってもらっている。介護相談員を受け入れている。	介護相談員の受入れをおこなっており、「若い職員が加わるとよいのでは…」といった具体的な進言を得ています。行政の窓口とは月1回以上連絡を取り合い、良好な関係を築いています。市から種球根を提供してもらっていて、咲いた花は撮影のうえ御礼として届けています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護現場におけるミスやエラーを見逃さず情報を収集し検証して身体拘束をしないケアをしている。	身体拘束ゼロ宣言をおこなっていますがスピーチロックは課題面もあるとして多様な場面で考える時間をもっています。親しさが余った言葉が出たときは言い換えを指導し、強めの口調にも都度注意しています。会議で事例紹介したり、管理者が適切な声かけを書面にまとめています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員で常に虐待行為の意識の共有化を図って、お互いにチェックし合っている。特に言葉遣いに気を使っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、CMIは外部研修に積極的に参加して、常に最新の介護技術・制度について勉強する機会を得ている。知り得た情報技術は全体会議等で職員への研修に活用して情報の共有化を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者家族には十分な説明を行い理解を得ている。その後の家族からの疑問等には素早く対応するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には家族とのコミュニケーションを図り積極的に意見や要望を伝えられるような雰囲気作りに努めている。	案内を発送するとレスポンスがあり、事業所と双方のやりとりがありますが、常には担当者が窓口として話を受けています。家族からは「ありがとうございます」の言葉が多く、不満を聴けるまでには至っていません。	家族アンケートではレクリエーションをはじめとする要望が幾つか挙がっていますので、愚痴レベルが職員に直接届くような関係となれることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案はリーダー会で話し合い職員の全体会議で検討しあい地域責任者の意見や助言を参考にしている。	地域責任者の定期訪問があり、職員は状況やニーズに応じて相談者を選ぶこともできます。また館山寺にニュー泉館を配し、夏季研修や管理者研修をおこなうことで職場環境を高めています。また単に人員調整ではなく、個々の特性を踏まえた人事異動があるとの支援もあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	良好な人間関係を築き、働き易い職場環境作りに努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は管理職指導で、介護支援専門員や介護福祉士は自己啓発で資格修得している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理職間の情報交換はあるが一般職員の交流は少ない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話を傾聴し、寄り添い安心と安らぎを感じて頂くために常に笑顔で接するように意識している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の意向等が確認できないことが多いため家族からの要望が主になることを踏まえ家族との関係作りに努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	思いを傾聴して要望を十分伝えられるように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な立場にならず人生の大先輩として敬う気持ちを忘れずその方の感情を大切にしている。相手の立場になり、自分の言葉や態度にも注意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、受診等必要に応じて家族と話す機会を設け入居者と家人との関係を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係が途切れる事のないように訴えを聞き連絡をとり途切れないように支援している。	その日の始まりに口紅を塗る人、家族と馴染みの店に通う人、在宅で日課としていた公園散歩を引き続きおこなう人、独り暮らしをしていた自宅を見に行く人、習字や折り紙の趣味を毎日の張合いとする人…というように一人ひとりの縁を大切にできるよう、生活歴の把握に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員が参加できる風船バレーをしたり、会話の仲介して楽しい雰囲気作りに努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された家族からの相談には最後まで支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを傾聴し、日常会話を積極的に交わして本人の意思を大切にしている。	普段の暮らしぶりやなにげない発語からイメージを膨らめて投げかけをおこなうこともあり、接する時間を長くもつことが意向把握に役立っています。海軍経験のある人は命令に従う習慣に配慮し、子どもを深く想う人には「会えなくて寂しい」ことに共感しつつ寄り添っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やケアマネを通して情報を収集し共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	認知症であることを踏まえて観察をし情報交換、記録を活用して共有に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人のニーズが明確でないことが少なからずあり、家族の思いや意見を反映していることが多い。カンファレンスにて意見交換や疑問を出し合いできるだけ迅速に話し合い、実行している。	契約時にはアセスメントとともにリスクチェック表を作成し、日常生活で起こりうる危険値を家族に理解してもらっています。毎月の定期モニタリングのほかフロアミーティング内で日々の状態記録を参照しながら見直しをおこなっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や特変など記録して共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族のご要望に応じて、主治医の監修の元、外部のマッサージサービスの提供に依拠している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内の移動が車椅子の利用者の場合、外出や通院の移動は家族との相談の上、介護タクシーを利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医の継続や事業所の協力医による受診を支援している。	かかりつけ医の継続者は3名で、ほかは協力医に変更しています。毎週看護師が訪問しての健康管理が施され、協力医も車で5～6分の開業医と、医療が身近にあり安心です。緊急時にはオンコールで医師の指示を仰ぎ救急病院へ、また家族には月次で受診報告をおこなっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一度の看護師出勤時にバイタルチェック、相談にのってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も家人や病院と密接に連絡をとり、情報収集に努め、退院後のケアに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の希望や意向が反映できるように十分に話し合いをする。ホームでの出来る支援の力を見極め早目の判断をしたほうが良いときもある。	契約時にリスク説明書に基づき案内をおこない、医療連携体制加算についての同意書を交わしています。看取りの経験は無く研修会の予定や対策も考えてはいますが、法人制度のAA課程のセミナーで急変時の学習を積んでおり、また自主会主催のAED講習に出向くことにもなっています。	「最期まで此処で」という本人、家族の意志がなければ急ぐ必要はないものの、看取り実績のある法人内の事業所に於いて学ぶ機会をつくることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変事故等の対応は決められている。救急搬送する場合の手順等訓練で対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、災害時の避難訓練はしている、今年度は地域との共同訓練を実施して、常に相互協力体制を構築している。	法人レスキュー隊の派遣も有事への安心となり、また防災訓練では6名もの近隣住民が階下避難を職員とともにこなってくださり、大きな励みとなりました。相互協力が構築しつつあることから自宅損壊の高齢者の受入れの検討に入っています。	備蓄が1日分程度とのことですが、現状のままではよいのかどうか一度検討されることを期待します。



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに気を付け一人ひとりに適した声掛けをしている。声の大きさにも配慮している。プライドを傷付けない様に一人ひとりに適した声掛けをしている。	生活歴の把握からこれまでの暮らしが続くように働きかけています。若年性認知症の利用者には家族から「脳トレを」との要望がありますが、本人の拒否があるため無理にはおこなっていません。タイミングをみて家事といった他のアクティビティで類似の機能訓練ができるようにしています	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者のレベルに応じて対応し、思いを傾聴し表情より汲み取るように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ希望に添った支援ができるようにしている。就寝時間は特に設けず、一人ひとりの生活リズムを慎重に見極めて、自然な対応を図っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい服装選びをしているが職員好みになってしまう事がある。散髪は2ヶ月に1回、ご本人とご家族の了解を得て施設の方で理美容師に依頼している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつは手作りしたり、施設内で採れた野菜を献立にいれて季節を感じていただいたり彩りよくする工夫をしている。	男性入居者の多い1階では丼ぶりメニューを開拓していて、各階でその人に応じた工夫があります。外食が困難のため、毎月1度のイベント食や手土産寿司は人気です。おやつは市販のおまんじゅうや煎餅を好んで食しますが、職員はかき氷等新たなチャレンジもおこなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は食材業者に依頼しており、栄養バランスは十分に確保される様に支援している。個々に応じて量や形態を考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後歯磨きの声掛けをし、入れ歯の洗浄消毒をしている。利用者が出来る範囲で口腔ケアをしてもらい出来ない事を支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にてパターンを把握するように努めている。パットとの種類を工夫しているが見直しも検討している。	ギリギリまでパットやおむつを控え、トイレで座位を保ってもらえるようおこなう方針です。水分摂取記録を以て水分補給をおこなう便秘対策のほか、食後にはトイレに一度は座ってもらうという方法と多様な試みがあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排泄パターンを把握し、医師との連携を図りながら、便秘に対して利用者に適した処方をして便秘予防を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週に3回、利用者がゆっくり楽しめる様に時間を十分とってある。入浴を嫌がる利用者にはシャワーを活用している。安心して入浴できるように声掛けしている。	ノスタルジックなタイル張りの浴室は臭いもなく清潔な空間に仕上り、広い浴槽は仲の良い同士が湯に浸かることもあります。歩行が不安定な人には好きなお風呂への意欲に乗じて職員介助と手すり浴まで歩いてもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者は20時くらいに入床する事が多いが21時頃に消灯時間として、それまではテレビを観たり、雑談をして自由に過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の全て、薬を飲んだ事を確認し、服薬後の症状の変化については医師と相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野でそれぞれ力を発揮していただけるよう支援している。洗濯物干し、たたみ、花の水やり、カーテンの開閉、絵を描く、塗り絵、裁縫などの支援。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に応じて買い物、外出、散歩、草取り、花見など季節を感じてもらえるような行事を支援。	公園までの散歩のほか、花見と紅葉狩りは恒例行事です。マイクロバスを借りることで、車いす利用が増えても多人数での外出が年1回は叶っています。散歩が無理なときは1~3階の全フロアを巡る利用者の姿がみられ、顔ぶれが変わることで本人も職員もリフレッシュしています。	フロア面積が広いことから足腰の訓練はおこなっていますが、上に高い建物のため戸外に頻回にでることがスムーズか気がかりです。外気浴の頻度を記録し、先ずは状況把握を期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を管理している方はいないが個々の、嗜好品や状態に応じ買い物支援を増やしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に沿って対応している。家族からの手紙や電話など支援。年賀状の支援をしたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の心地よい場所や環境作り(家族の写真等)に配慮している。季節感を取り入れた折り紙や工作で心地良い場所作りに工夫を凝らしている。	「普段ない荷物があると速やかに片づけてしまう」ことが職員に身につけていて、動線が確保されたスッキリとした空間です。開所当時から変わらず元気に枝葉を伸ばした観葉鉢も仲間の一人として皆を和ませてくれています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間におけるそれぞれの利用者のいる場所作りを支援工夫をしている。定位置の方が安心出来る方おり、個々の希望があった際は支援できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はそれぞれの利用者の思いや生活習慣、家族との懇談場所になるように支援している。	いつでも好きな書道ができるよう道具を傍らに置く人、自分でつくった暖簾をかける人、毎日化粧を施す人、それぞれの趣を受けとめることができる居室を視認しました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の一人で出来ることを考慮し、家族と職員が相談しながら安全で安心して過ごせる工夫をしている。		